

「～のはずなのに、なぜ？」を教材化する社会科学習

税込み2420円

7月21日発売予定

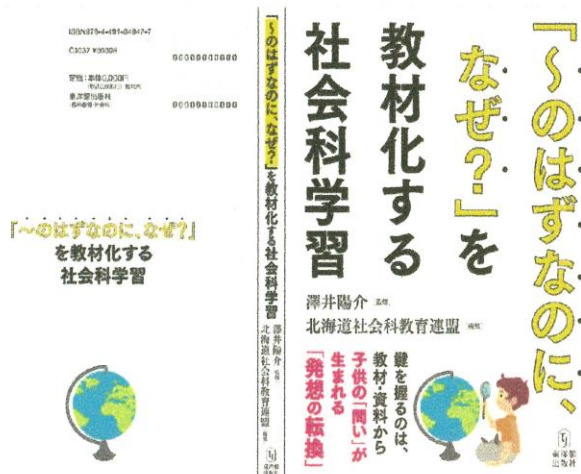
北海道社会科教育連盟編著 「～のはずなのに、なぜ？」を教材化する社会科学習

の予約が Amazon で始まりました！

「～のはずなのに、なぜ」は、「問いの王道」であり、社会科授業のど真ん中に鎮座する不易であり流行です。

この社会科学習における「問いの王道」を主たるテーマとして研究し、実践し、まとめあげたのが本書であり、理論、座談会、実践事例で構成しています。

北海道の社会科がずっと大切にしてきた、「発想の転換」という教材観から教材化したら、子供が、夢中で追究する单元になる！そういう思いをびっちり詰めた本になりました。



【社会科が苦手、これから頑張りたいあなたに】

第4章の15本の実践事例を並べてみたら「なるほど！社会科の学習ってこういう風に単元を組み立てたらいいのかわかるので、「社会科ってどう学習したらいいかわからない(T・T)」という先生にヒントになります。

【社会科好きで、これから教材化も頑張りたいあなたに】

「自分でも教材開発したいけど、どうやって教材化したらいいかな？」という先生には、第3章で、札幌の社会科の授業名人とみんなが知っている教頭先生、校長先生が、教材化や授業のヒントになるコラムを6本書いてくれました。

【社会科を極めたいあなたに】

「社会科を頑張っているけど、これからもっと極めたい」という先生には、第1章の理論編で、「発想の転換を生かす教材化」「教材と子どもの追究を繋げる教材化」についてこれでもか！と書きました。(笑)「教材化の視点」と「追究の視点」については終章で澤井先生も書いてくださっています。

【自称マニアなあなたに】

また「自分は社会科マニアです」と自負されている先生にも必ず楽しんでもらえる第2章座談会は、自分達もだいぶ楽しみすぎてすみません。笑笑

社会科について興味がある全ての先生達に必ず何かしらのヒントや、楽しさを提供出来る！さつになっていると思います！最初から最後まで、全ての執筆者の原稿が素晴らしい内容でビシッと揃っている素晴らしい一冊になったと自画自賛しています！

前文部科学省視学官で今回の学習指導要領の改訂の中心人物、大妻女子大学の澤井教授に監修いただき、終章として社会科の学習の授業づくりとして大事にしたい「教材化の視点」「追究の視点」についてもたっぷり書いていただきました。

東洋館の担当者の高木さんからは、「雪や寒さ」北海道とは真逆の南国のような熱さを感じる本になりましたね！とお褒めの言葉(笑笑)をいただきました。

Amazon の社会科部門では、発売前ですがすでに何度も 1 位を獲得。全国的にもものすごく注目されている一冊です。
みなさん、ぜひどうぞ。